

**平成27年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果**  
(平成28年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成27年7月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成28年3月

産業労働部長 田岡 卓晃

項 目	実 施 結 果
<p><b>1 人口減少の衝撃を乗り越え、県内総生産を拡大</b></p> <p>◇福井経済新戦略の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年4月に見直した福井経済新戦略に基づいたプロジェクトについて、それぞれに具体的な成果目標やタイムスケジュールを定め、その効果を検証しながら、企業や県民にわかりやすい形で、スピード感を持って施策を展開していきます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>見直した福井経済新戦略に掲げる3つの基本戦略のもと、産学官金が連携したイノベーションの促進や本社機能の誘致、地域の小さな企業の応援などの新しい施策を実施しました。</p>
<p><b>2 革新と創造で伸びゆく福井の企業</b></p> <p>◇福井発の「ローカル産業革命」</p> <p>○産業革新の一貫システム【共同研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ふくいオープンイノベーション推進機構」による産学官金の連携機能を最大限活用し、機能性材料、医療、アグリビジネスなど成長分野において、<b>新たな研究者や企業が参画する共同研究プロジェクトを進めます。</b> (平成26年度 ー) <b>15件</b></li> <li>8月に敦賀市内に嶺南企業の支援拠点を開設して、巡回訪問や経営相談を実施し、<b>嶺南企業の課題解決に向けた専門家派遣や補助制度等による支援</b>を行います。 (平成26年度 96社) <b>120社</b></li> <li>ものづくり企業の生産性向上を図るため、生産現場で業務改善を進める高度な人材を養成する「ものづくり改善インストラクター養成スクール」の平成28年度中の開講を目指し、スクール統括責任者の養成、カリキュラムの編成、講師の選定などを行います。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県内外の大学や研究機関など73機関、692名の研究者等で構成する「ふくいオープンイノベーション推進機構」を6月に設立しました。</p> <p>さらに、研究者・コーディネーター等による企業訪問や交流会においてニーズを掘り起こし、運転者の身体の状態が把握できるカーシートの開発など、共同研究プロジェクト15件を進めました。</p> <p style="text-align: right;"><b>15件</b></p> <p>ふくい産業支援センターの嶺南サテライトオフィスを8月に開設し、553件の巡回訪問や経営相談を実施しました。経営相談等による新商品開発や商品の販路拡大支援など、課題解決に向けた支援を行いました。</p> <p style="text-align: right;"><b>141社</b></p> <p>スクール統括責任者の東京大学ものづくりインストラクター養成スクールへの派遣、計17日間にわたる座学、現場実習および成果発表を内容とするカリキュラムの編成、講師5名の選定を行いました。また、ものづくり機運醸成のため、県内ものづくり企業を訪問し、受講生や実習先の確保に努めるなど、平成28年度のスクール開講に向けた準備を進めました。</p>

項目	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の地域経済分析システムなどを活用して、企業間取引情報などを分析することにより、県内経済の現状・実態を詳しく把握し、福井経済新戦略に掲げる施策の実行に反映させます。</li> </ul>	<p>国の地域経済分析システムにより、繊維や眼鏡、電子デバイス等の業種は県内に多くの利益をもたらしていること、卸・小売・サービス業は、地域の雇用を支えていることを統計的に確認し、この分析結果に基づき、技術・商品開発から販売促進まで産学官が一体となった支援など福井経済戦略に掲げる施策等に反映しました。</p>
<p>○地域連携・業種横断の技術革新 【共同研究】【部局連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今秋に人工衛星関連イベントを開催し、県民や企業等の宇宙関連産業分野に対する理解を深めながら、<b>企業、大学、関連団体が連携</b>して超小型衛星の技術開発や利活用などの<b>事業化に向けた組織</b>の立ち上げを支援します。 (平成26年度 ー) <b>20社・団体</b></li> <li>・県内繊維産業における織、編、染色等の業種連携や県域を超えた企業連携による、<b>自主ブランド商品の開発や国内外の展示会出展などを支援し、売上拡大</b>につなげます。 (平成26年度 ー) <b>1.5億円</b></li> <li>・国内最大級の医療機器展示会「HOSPEX」や大学病院など医療現場において、医療従事者とのビジネスマッチングを行い、県内企業の<b>医療・健康関連機器の新たな製品開発</b>につなげます。 (平成26年度 12件) <b>12件</b></li> <li>・炭素繊維大手企業との共同研究により、強くて軽い補強部材を用いた橋梁補強技術を開発し、炭素繊維複合材料の適用範囲や受注拡大につなげます。</li> <li>・サトイモアイスやいかへしこオイル漬けなど新商品の開発、食品加工工場等への支援、インターネット通販サイトの活用等により、<b>6次化商品の販売額を増や</b>します。 (平成26年度 1.2億円) <b>1.7億円</b></li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>9月に企業、大学、産業支援機関等による「ふくい宇宙産業創出研究会」を設立し、人工衛星の技術開発に必要な知識習得のため、設計基礎論講座を開催しました。 また、宇宙産業の現状や展望等について広く周知するため、10月に「宇宙博 in ふくい」を開催し、県内企業が製造する宇宙機器の展示や有識者による講演会等を行いました。 <b>25社・団体</b></p> <p>県内繊維企業の業種横断グループによる大手商社との販路開拓活動を支援したほか、8月の内覧会には18社が出展するなど、産地が一体となり県産テキスタイルのPRを行いました。 さらに、組合など業界団体によるヨーロッパや中国等への展示会出展を支援し、売上拡大につなげました。 <b>2.1億円</b></p> <p>11月に国内最大級の医療機器展示会「HOSPEX」に福井県ブースを出展したほか、9月と12月に参入セミナー、2月に医療現場見学会、3月に医療機器メーカーによるニーズ説明会の開催により、県内企業の医療産業参入を支援しました。これらの結果、高機能マットや医療用フェイスシールドなど新たに12点が製品化されました。 <b>12件</b></p> <p>炭素繊維を活用した橋梁補強技術を開発するため、7月に「次世代橋梁部材事業化研究会」を設立し、劣化した橋梁を補強するための炭素繊維構造部材の試作と性能評価を行いました。</p> <p>6次化商品については、東京のアンテナショップ「ふくい南青山291」「食の國 福井館」における販売や、大阪・神戸の百貨店やスーパーのバイヤー向け商談会への出展支援など、首都圏や関西方面への販路拡大を進めました。 <b>1.73億円</b></p>

項目	実施結果
<p>○世代をつなぐ「職人」技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>越前ものづくりの里プロジェクトをさらに進め、「伝統工芸職人塾」により後継者を育成するとともに、工房の見える化や旅館と連携したPR・販売などにより、伝統工芸産地の魅力を高めます。 (平成26年度「伝統工芸職人塾」の研修人数13人)</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>新規・継続計 20人</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>越前焼の発信や陶芸村の誘客拡大を図るため、福井国体開催の前年となる平成29年秋の竣工を目指し、旧水野邸を活用した「越前古窯拠点施設」の建築工事に着手します。</li> <li>伝統的工芸品等の売り込みのものづくり拠点とするため、平成28年秋に開催される「伝統工芸品月間全国大会」においても活用できるよう、サンドーム福井の管理会議棟の再整備を進めます。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>今年度計25人(長期13人、短期12人)の塾生が、各産地で熟練職人から実技指導を受けました。また、長期塾生については、隔週1回、サンドームで開催されるデザイン等の研修を受講しました。</p> <p>また、来訪者が楽しみながら工房見学等ができるよう5産地の散策マップを作成するとともに、産地への誘客を図るため、国内最大級の旅イベント「ツーリズムEXPOジャパン」に出展し、伝統工芸の実演や体験を通じて観光事業者等に働きかけました。さらに、丹南地域の宿泊施設10施設が伝統的工芸品を料理の器等に使用し、宿泊客にPRしました。</p> <p style="text-align: right;"><b>25人</b></p> <p>9月に越前古窯拠点の建築工事に着手し、建物の基礎工事まで完了しました。29年秋の完成を目指し、引き続き工事を進めていきます。</p> <p>サンドーム福井管理会議棟をものづくり産業の振興や人材育成の拠点機能を持つ「ものづくりキャンパス」として再整備することとし、詳細設計を実施しました。28年度に改修工事に着手し、秋頃の完成を予定しています。</p>
<p>◇地域ビジネスを積極的に応援</p> <p>○小さな企業の元気応援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の中小企業・小規模企業が抱える課題に応じて、新商品開発・新分野開拓や老舗企業の店舗改装、事業承継など、商工団体とともに一貫した支援を行います。また、年度内に、地域で活躍する優れた企業を顕彰する制度を創設し、県内企業の見える化を進めます。 (平成26年度 1,778社)</li> </ul> <p style="text-align: right;"><b>1,900社</b></p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商工団体等の支援機関と協力し、店舗改装などの設備投資や新商品の開発、新分野への進出支援など、1,997社の中小企業・小規模企業に対して支援しました。</p> <p>また、地域で活躍する県内企業の優れた取組みを広くPRするため、「福井ふるさと企業表彰」制度を創設しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>1,997社</b></p>
<p>○プレミアム商品券による消費喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用場所を小規模店に限定した商品券の発行と、地域店舗の販売促進のためのイベントやリピーターの獲得活動を支援することにより、小規模店を含めた県内全体の消費を拡大します。 (平成26年度 ー) <b>68億円</b></li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商品券を使用した県内全体の消費額は、アンケート結果から推計すると、使用総額54億円の約1.3倍(約69億円)となりました。</p> <p>そのうち、約3割(約19億円)が小規模店で使用されており、「リピーターが増えた」「新規の客が来るきっかけとなった」など、地域の商店を中心とした消費拡大の効果をあげました。</p> <p style="text-align: right;"><b>69億円</b></p>

項目	実施結果
<p>○おもてなし商業エリアの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度認定した大野市、勝山市、高浜町において、外部専門家を活用したまちづくり計画に基づき、飲食店等おもてなし関連店舗の改修等を進めるとともに、新たに認定する地域を増やし、県内外からの誘客による賑わいあるエリアづくりを進めます。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>大野市、勝山市、高浜町においては、飲食店等8件の改修を支援しました。さらに、今年度、新たに福井市、敦賀市のエリアを認定し、外部専門家の指導のもと、店舗改修（2市で14店舗）等を含めたまちづくり計画の作成を行いました。改修が完了した店舗では、観光客の利用等により、売上2～5割増加の成果が出ています。</p>
<p>○中小企業者への金融支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開業支援資金の融資要件を緩和するなど創業支援を強化します。また、事業転換や地域資源を活用した新商品開発などの前向き資金を支援することにより県内経済の活性化を図ります。</li> <li>・円安による原材料の高騰により資金繰りが悪化している中小企業支援など、セーフティネット資金（経営安定資金、資金繰り円滑化支援資金）により中小企業の資金繰り対策に万全を期します。</li> </ul>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p> <p>開業支援資金の融資実績は、7月から自己資金要件等を緩和したことにより、昨年度と比べ、件数で約5倍（37件）、金額で約3倍（約1億7,367万円）と大きく増加しました。開業支援資金を含む前向き資金全体でも、件数で昨年度の1.3倍（65件）、金額で約8億円の融資を実行しました。</p> <p>小規模事業者へのマル経資金の利子補給を引き続き実施するとともに、セーフティネット資金により中小企業の円滑な資金繰りを支援しました。</p> <p>マル経資金利用 : 732件、約43億円 セーフティネット資金利用 : 198件、約46億円</p>
<p>◇つかめ国内外のビジネス・チャンス</p> <p>○国体・五輪を機にビジネス拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福井しあわせ元気国体や東京五輪を契機とした、県内企業による Made in Fukui の新商品開発を支援するとともに、大会関係機関やスポーツ用品メーカー等への売込みを強化し、売上拡大を図ります。</li> <li>・リアルタイム文字通訳サービスのような、福井しあわせ元気国体での活用が期待できるアプリケーションや、眼鏡や繊維を素材とする機器開発などを支援し、<b>県内企業のウェアラブル関連産業への進出を促進</b>します。 (平成26年度ー) 15件</li> </ul>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>県内企業が織り編みから縫製まで全ての工程を行うポロシャツとジャンパーの開発を支援し、国体スタッフ用として採用されました。また、新商品開発に取り組む企業に対し、デザイナー等の専門家派遣や試作品の開発支援を行いました。売込みについては、大手スポーツメーカーのほか、10月に東京都知事に対し、越前和紙をはじめとする県産品の活用を要請しました。</p> <p>ウェアラブル機器の開発に向けた勉強会の開催や、実証実験への支援を行ったほか、1月に東京ビッグサイトで開催された日本最大級のウェアラブルEXPOでは、県内眼鏡・繊維企業10社の共同出展を支援しました。</p> <p style="text-align: right;">17件</p>

項目	実施結果
<p>○東南アジアとの「お互いプロジェクト」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイ・上海事務所において、現地情報の提供や相談対応等により、県内企業の<b>アジアへの新規輸出、拠点開設を支援</b>するほか、観光誘客に向けた現地旅行代理店への福井の観光商品の売り込みや、県産食品の販路開拓に向けた活動を展開します。</li> </ul> <p>(平成 23～26 年度 輸出 140 件、 拠点 50 件)</p> <p style="text-align: center;"><b>輸出 40 件、拠点 15 件</b></p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>上海事務所においては、県内企業からの販路開拓等の相談約 610 件に対応したほか、台湾高級スーパーにおける福井物産展において、食品・工芸品の台湾商談会を開催し、県内企業 21 社・台湾企業約 200 社の参加により、約 180 件の商談につなげました。</p> <p>バンコク事務所では、拠点開設等の相談約 640 件に対応したほか、県内企業 7 社とシンガポールの食品バイヤーとの個別商談などを実施しました。また、2 月には、タイのアチャカ工業大臣を招き、経済交流会議「お互いフォーラム in 福井」を開催しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>輸出 41 件、拠点 16 件</b></p>
<p>◇県・市町一体の企業誘致</p> <p>○本社機能の誘致と産業団地の整備促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高速交通ネットワークの整備進展や安価な電気料金、低い自然災害リスクなどをアピールし、新エネ・省エネ関連や物流関連、IT 関連、電力多消費型産業などの<b>企業誘致</b>を進めます。さらに、企画開発やデザイン、国際部門など本社機能の一部移転を働きかけ、女性や若者に人気のある職場や職種を増やします。</li> </ul> <p>(平成 23～26 年平均 29 社)</p> <p style="text-align: center;"><b>30 社 (暦年)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・嶺南地域の産業団地については、美浜町山上地区で 28 年度の方譲開始を目指します。また、敦賀市田結地区については、30 年度の方譲開始に向け、設計業務や農地転用等の手続きを進めます。インターチェンジに近いなど両団地の利点を活かし、地元への経済波及効果の高い企業の早期誘致を進めます。</li> <li>・産業用地が不足している嶺南地域や、中部縦貫自動車道の整備進展により中京方面へのアクセスが向上する奥越地域においても、市町と協議し、産業団地の整備に向けた候補地の選定を進めていきます。</li> <li>・テクノポート福井については、防風林帯の産業用地造成や公共用地の転用、転売可能な企業の未利用地の活用を進め、産業用地の拡充を図ります。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>企業立地推進戦略本部において、年間約 1,000 件の企業訪問を行うなど、市町や電力事業者と一体となった誘致活動を実施したほか、東京において企業役員を対象に企業立地セミナーを開催(約 140 人参加)するなど、誘致活動を行いました。</p> <p>また、管理部門や研究開発部門など、本社機能を移転・拡充する企業への新たな補助制度や税制優遇制度を創設し、県内に拠点を置く進出企業や本県にゆかりのある企業の役員を中心に訪問して、本県の優れた立地環境等をアピールしました。日本電産テクノモータの研究開発部門の拡充、信越化学工業の新工場建設など、企業立地数 32 社(設備投資額 27.5 億円、雇用予定数 595 人)を実現しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>32 社 (暦年)</b></p> <p>美浜町山上地区の産業団地は、昨年 9 月から造成工事を進め、今年 4 月に分譲を開始します。また、敦賀市田結地区は、農地転用や用地買収に向けた地元説明などを進めるとともに、調査設計業務を完了しました。</p> <p>早期の企業誘致を進めるため、企業への訪問活動や、11 月に東京で開催した企業立地セミナー等で、両団地の優位性等を PR しました。</p> <p>引き続き、都市圏での企業訪問等による PR を進めていきます。</p> <p>奥越地域の産業団地については、地元市の候補地選定等に協力し、来年度より大野市が富田地区において調査設計業務を開始することになりました。</p> <p>テクノポート福井の産業団地の拡充に向け、公共用地の転用や企業の未利用地を活用するため、北陸地方整備局や誘致企業と協議を重ねました。さらに、防風林帯を産業用地として造成するための測量・設計を行いました。</p>

項目	実施結果
<p>2 人口減少に歯止めをかける徹底戦略 ◇幸福日本一福井へ 移住・定住戦略 【部局連携】 ○女性・若者に活躍の場・しごと創造 ・女性向けの相談窓口の設置やセミナー開催などにより女性の創業支援を強化するとともに、大都市圏での創業希望者を対象とした相談会の実施、融資や補助金による資金面の支援などを拡充し、<b>創業数</b>を増やします。 (雇用保険新規適用事業所数 平成23～26年度 平均約570件) <b>600件</b></p>	<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p> <p>女性の創業希望者に対し先輩起業家と意見交換を行うセミナーを開催しました。また、ふくい女性活躍支援センターにおいて相談窓口を開設し、延べ67件、36人の相談がありました。その結果、新たに7人が創業しました。</p> <p>さらに、東京と大阪の「ふくい“幸せ移住”セミナー」において、UIターン後の創業体験談と相談会を開催し、あわせて28人が参加しました。</p> <p>新たに創設した創業支援補助金では、27件の申請があり18件を採択、拡充した開業支援資金により33件の融資を実行するなど、資金面からも創業を支援しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>578件</b></p>
<p>○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく ・多くの転職希望者の情報を持つ人材紹介会社と連携して、都市部の高度な技術、マネジメント能力を有する人材をヘッドハンティングするなど直接的な働きかけにより、<b>県内企業へのU・Iターン就職を促進</b>します。 (平成26年度 ー) <b>10人</b></p> <p>・県内企業の具体的な仕事内容等に関する情報を冊子やHPで提供することに加え、ジョブカフェ職員が県外大学に出向いて県内企業の紹介を行うなど、大学生のU・Iターンを進めます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。(さらに強化します。)</p> <p>県内外の人材紹介会社と連携(13社)し、人材バンクに登録がある都市部の産業人材に県内企業へのU・Iターン就職を働きかけました。また、奈良県で開催された合同企業説明会にブースを設け、27人に県内企業の紹介を行いました。加えて、企業の人事担当者向けセミナーを開催し、86社、128人に産業人材の雇用を働きかけることにより、商品開発分野の専門家など11人の産業人材のU・Iターン就職につなげました。</p> <p>今後は、県による企業への直接的な働きかけと、求められる人材情報の収集をより一層強め、企業の産業人材確保を進めていきます。</p> <p style="text-align: right;"><b>11人</b></p> <p>県内企業にどのような職種があるか、就職後キャリアを積めるか等、具体的な仕事内容をわかりやすく説明する冊子やHPを作成し、学生等に提供しました。加えて、ジョブカフェ職員が東京など県外4か所で開催された合同企業説明会等に出向き、県内出身の大学生等に県内企業を紹介しました。</p>
<p>◇進学・就職の地元志向にインセンティブ ○県内企業への就職を促進 ・企画やデザイン、研究開発、国際部門等の職種が大学生等に伝わる工夫をした企業説明会「しごとフェア」を開催するなど、<b>県内大学生等の県内企業への就職を促進</b>します。 (県内大学等卒業者の県内就職者数 平成23～26年度平均1,336人(※月末時点) <b>1,350人</b></p>	<p>[成果等] 目標にはいたりませんでした。</p> <p>県内で4回開催した合同就職面接会等(しごとフェア)において、県内企業が求める職種の一覧や詳細な仕事内容を記載したガイドブックを配布するとともに、子育て応援企業など企業の職場環境改善の取組みを表示することにより、県内に魅力的なものづくりの仕事や職場があることを県内大学生等1,311人に訴え、1,249人の県内就職(約610事業所)につなげました。</p> <p style="text-align: right;"><b>1,249人</b></p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇女性の元気が福井の元気 ○子育て等と両立しながら女性が活躍できる職場環境づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育児や介護により離職した女性の労働力を活かすため、再雇用制度等を導入し、利用者が出た企業に奨励金を支給することにより、女性に魅力のある企業づくりを促進します。 (平成 26 年度 ー) 30 社</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>勤労者就業環境基礎調査により、職場環境改善に前向きと考えられる県内企業約 100 社（医療・福祉分野の企業、従業員 100 人以上規模の企業等）に対して、再雇用制度等の導入による職場環境整備を推進するよう働きかけを行い、30 社が再雇用制度等を導入しました。</p> <p style="text-align: right;">30 社</p>
<p>3 福井から人材育成 ◇産業人材の育成・誘致システム ○中小企業産業大学校、産業技術専門学院の革新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業産業大学校と産業技術専門学院の人材、施設、設備の相互利用など一体的な運営を進め、28 年度から座学と実習を組み合わせた連携講座を提供できるよう、カリキュラムの編成を行います。</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>中小企業産業大学校において、福井産業技術専門学院の職業訓練指導員が技術研修の講師を務める連携講座（「図面の読み方・描き方基礎講座」）を新たに開講するなどカリキュラムの編成を行いました。</p>
<p>4 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献 ◇みずから伸ばす「健康寿命」 ○健康長寿もうひと働き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今秋に「シニア人材活躍支援センター」を設置し、就職コーディネーターが専門的な技術や経験のあるシニア人材と県内企業とのマッチングを行うことにより、企業が求める人材を確保します。(平成 26 年度 ー) 15 人</li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>10 月末に開設したシニア人材活躍支援センターにおいて、就職コーディネーターが県内企業を訪問し、38 社から 95 人の求人を受け付けました。また、県内 6 か所でシニア人材向けセミナーを開催し、100 人の求職登録につなげるなど、積極的に出向いて求人・求職の情報収集を行いました。これらの情報に基づいて、就職コーディネーターが雇用条件等の調整を行い、19 人の企業の人材確保につなげました。</p> <p style="text-align: right;">19 人</p>

項目	実施結果
<p>5 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○首都圏における県産品の販路拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏からの誘客を図るデスティネーションキャンペーンの関連フェアの開催や、本県の食材を取り扱う福井ゆかりの店を通じたPRなどにより、<b>ふくい南青山291および食の國 福井館の売上拡大と発信強化</b>を行います。 (平成26年度 2億8,212万円) <b>3億2,000万円</b></li> <li>・アンテナショップの活用や大手食品卸会社等と連携して、首都圏のニーズに合った商品の開発改良と百貨店や量販店への売込みを行い、<b>県産食品の新規取引額を増や</b>します。 (平成26年度 4,100万円) <b>5,000万円</b></li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>ふくい南青山291および食の國 福井館においては、デスティネーションキャンペーンや北陸新幹線金沢開業1周年を記念に他県との連携事業を実施し、集客を増加しました。また、グラスギャラリー291や併設飲食店とともに県産品の割引販売を実施したほか、へしこを題材としたセミナーの開催や福井市・坂井市のフェア開催などにより、売上が増加しました。</p> <p style="text-align: right;"><b>3億2,523万円（前年度比115.3%）</b></p> <p>百貨店バイヤーやフードコンサルタントの協力を受けて、新商品開発やパッケージ等の改良を行うとともに、アンテナショップの営業や、専門家や大手食品卸会社への販路開拓により、百貨店、酒卸、食品スーパー、飲食店など73店が県産品を新たに扱うこととなりました。</p> <p style="text-align: right;"><b>5,070万円（前年度比123%）</b></p>
<p>6 美しい県土、楽しく便利なまちの形成</p> <p>◇道路・港湾の重点整備と利用促進【部局連携】</p> <p>○敦賀港の利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県・敦賀市・敦賀港国際ターミナル(株)が共働で、中京・関西に近いことやBCPの観点、拡充した助成制度など、敦賀港の利用メリットを最大限PRした「営業と助成の両面作戦」により、貨物の増大を図ります。 (平成26年 敦賀港外貿コンテナ貨物取扱量 25,017TEU) <b>28,000TEU</b></li> <li>・クルーズ船寄港地の決定権を持つ運航責任者の招聘や国際見本市への出展、敦賀みなと振興会と連携して県内外観光地の多様なオプションツアーを提案するなど、国内外の船社や代理店に対する売り込みを強化し、<b>クルーズ船の寄港を増や</b>します。また、<b>海外クルーズ客船の初寄港</b>を目指します。(平成27年 3回) <b>5回</b></li> </ul>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>敦賀港の外貿コンテナ貨物量については、約600件の荷主等への営業訪問に加え、東京、大阪、名古屋、滋賀において4回のセミナー等（164社参加）や海外で初となるセミナー（58社参加）を韓国釜山で開催するなど、精力的なポートセールスを行いました。</p> <p style="text-align: right;"><b>29,400TEU</b></p> <p>国内外の船社や旅行会社等延べ80社を超える営業訪問や運行責任者の招へい、海外クルーズ見本市への出展などにより、県内港湾や周辺の魅力的な観光コースを売り込みました。</p> <p style="text-align: right;"><b>5回</b></p>



項 目	実 施 結 果
<p>○福井港の利用促進</p> <p>・テクノポート福井立地企業などの県内荷主に対し、広い埠頭用地での荷捌きなどを働きかけ、<b>福井港の貨物取扱量（石油製品・重油を除く）の増加を図ります。</b></p> <p>（平成 26 年 64 万トン） <b>66 万トン</b></p>	<p>〔成果等〕 目標にはいたりませんでした。</p> <p>福井港の貨物取扱量については、120件を超える荷主企業に対しポートセールスを行いました。が、輸入アルミ塊の全国的な在庫飽和や金属くずの輸出減の影響により、目標にはいたりませんでした。</p> <p>今後は、県内企業の行う発電事業の本格化により、福井港を利用した発電燃料などの輸入が考えられることから、それらの福井港での取り扱いを増やしていきます。</p> <p style="text-align: right;"><b>60.5 万トン</b></p>

**【実施結果の区分】**

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)